

みやぎの「産業復興」の現状と課題

短期的課題

(1) 事業者の販路の回復・開拓

内陸部

地域間で現状に大きな相違

沿岸部

④企業集積による製造業の裾野拡大
自動車関連産業を中心に企業の集積が進むことで、製造業の裾野が拡大

輸送用機械出荷額(H22)1,775億円→(H24)3,252億円

②着実に進む農業生産基盤の復旧
大規模化を推進し、新たな成長産業へ

県内総生産(名目)農林水産業
(H22)117,287百万円→(H24)107,668百万円

①遅れる商工・水産業の復旧
地盤嵩上げ等の遅れにより復旧途上の段階

事業停止や風評被害による販路喪失

水産加工品出荷額
(H22)2,582億円→(H24)1,400億円

③人材不足・人口流出

基幹産業(水産加工業等)のマンパワー不足
内陸部等への人口流出が顕著に

沿岸部定住人口:(H22)63.5万人→(H24)60.1万人

全県

⑤雇用のミスマッチ

「建設・土木」等の求人が多い一方、「事務職」は低水準で推移
被災離職者・若年求職者にとっては厳しい環境が続く

県内有効求人倍率:建設系2.83・保安系5.11・事務系0.30※H26.5

⑥観光客の減少

風評被害等により国内外からの観光客入込数は回復途上

観光客入込数:県内全域:(H22)6,129万人→(H24)5,208万人
石巻・気仙沼圏域:(H22)805万人→(H24)415万人
外国人延べ宿泊者数:(H22)15.9万人→(H24)7.8万人

中長期的課題

(2) 地元産業の競争力強化・人材確保

中長期的課題

(3) 交流人口の拡大

⑦国際化の進展

・新興国の台頭により厳しい国際競争の時代へ
・アジアの中間層・富裕層人口が増加の見込み
・TPP等経済連携の推進

〈GDP成長率推移(2010-18)〉
日本:1.0%、中国:16.5%
インド・NIEs・ASEAN5:8.0%

〈アジアの中間・富裕層〉
2010:19億人、2020:29億人

⑧人口減少と少子高齢化

・本格的な人口減少時代へ
・需要縮小による地域経済の落ち込みが懸念

日本...▲16.2%(2010-40)
『日本の地域別将来推計人口』より

経済・社会構造の変化